

## 平成27年度 第5回 府中市文化財保護審議会議事録

日 時 平成28年3月1日（火）午後3時

場 所 ふるさと府中歴史館3階

出席者 田中会長、坂詰委員、中村委員、馬場委員、福嶋委員、八木橋委員  
以上6名

事務局 江口課長、黒澤課長補佐、和田郷土資料担当主査、荻野事務職員、小林事務職員

傍聴者 なし

### 1 審議事項

会長 それでは審議事項（1）から、事務局の説明求めます。

#### 報告事項（1） 国史跡 武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備工事（第1期）実施設計の概要について

事務局 資料1をご覧ください。前回の文化財保護審議会に於きまして、国史跡武蔵国府跡国司館地区の保存活用整備事業の進捗状況について、ご説明させていただいておりますが、現在第1期工事の実施設計に入っております、この3月末までに、実施設計を完了する予定でございますが、ここでその実施設計がほぼ纏まってきましたので、本日、その審議をお願いするものです。

資料1の1番、対象範囲からご説明いたします。

平成24年度に策定した基本計画（提言書）の3つのゾーニングのうちの「古代の空間再現ゾーン」「国衙地区連携ゾーン」が対象範囲です。

JR府中本町駅に隣接する「にぎわい創出ゾーン」は平成28年度以降により効果的な整備活用の方法を検討したうえで、第2期工事分として平成30年度より工事に着手する予定です。別添のA3版の図面の1ページ目のA工区が第1期工事でB工区が第2期工事です。

資料1の2、遺構整備で、（1）の基本方針として、史跡指定地全体を現状のまま保存することを前提として、全体に厚さ30cm以上の盛土をして遺構の適切な保護を図ります。A3版の図面の5ページの横断図の赤いラインが遺構確認面です。ここに十分に盛り土をして遺構を保護する予定にしております。

（2）の整備対象とする時代と遺構として、A3版の図面の1ページをご覧ください。整備によって遺構表示を行う対象は、国史跡の本質的価値を示す、

奈良時代前半（8世紀前半頃）の国司館の主屋（正殿）S B 5と副屋（脇殿）S B 7、付属建物S B 8、竪穴建物後のS I 1、大型円形土坑のS X 2 0 7、これらを対象とします。

（3）の遺構表示方法ですが、A 3版の図面の6・7・8ページに遺構整備の図面を載せています。正殿、脇殿、付属建物については、取り外し可能な柱を立て、実物大で原位置に立体表示します。竪穴建物後はインターロッキングで現位置に平面表示、大型円形土坑は白磁陶板を用いて原位置に平面表示します。

（4）のウェアチャル技術の活用ですが、資料1の別添の画像の活用イメージのようにARとVR等の技術を用いたスマートフォン・タブレット端末用のアプリケーションソフトを開発し、端末の画面上で国司館建物や当時の景観等の復元画像を見ることができるよういたします。

資料1の3の外構整備ですが、A 3版図面の1ページをご覧になりながら説明をお聞きください。

（1）の出入口ですが、図面の⑪と⑫です。史跡の境界北側の2箇所に門扉を設置します。管理上の問題で、近隣住民からの要望があり、夜間は閉鎖する方向で検討しております。

（2）の園路ですが、図面の⑥と⑦です。⑥の国衙地区連携ゾーンは、全体を石張りとして、例えばくらやみ祭の山車がここに入っても、問題ないような硬い石張りにする予定です。⑦の古代の空間再現ゾーンの方は、透水性インターロッキングで舗装する予定です。

（3）の広場ですが、図面の⑬と⑭です。⑬は古代の空間再現ゾーンの南西側の緑色のところで、人工芝を張って広場とします。三角形の緑色の⑭は植栽広場として整備し、将来的に「古代万葉植物園」として、市民と協働で管理・活用を図ります。

（4）の植栽ですが、図面の⑮と⑯です。⑮の府中街道側と南側マンションの敷地境界に「アラカシ」を植栽する予定です。これについては当初、武蔵野の屋敷林を想定してシラカシを植栽することを検討していたのですが、シラカシは大きくなり易いということで、将来的な維持管理に手間が掛かるのではないかと、シラカシではなくアラカシが良いのではないかと考えております。

⑯のにぎわい創出ゾーンについては、第2期工事着手までの間の景観に配慮し、「クローバー」を植栽します。

（5）のサインですが、図面では㊦、㊧、㊨、㊩の位置に設置する予定です。それぞれの設計図は、A 3版の図面の9・10ページ目にあります。㊦の位置に史跡の名称を記した柱を設置します。㊧の位置に国府、国分寺、東山道武蔵路等の古代武蔵国の歴史を説明するような説明板を設置します。㊨の位置

には、それぞれ個別の遺構が平面表示されているところに、その解説を記載した表示を設置します。回的位置には、国司館全体の説明を記したものを設置します。それぞれのサインにつきましては、史跡の景観を乱さないように配慮のうえ設置します。

(6) のベンチですが、図面では回位置になります。特に古代の空間再現ゾーンに休憩用のベンチをいくつか設置します。

(7) の電気設備ですが、図面では回と回位置になります。府中街道側の敷地境界に、ポールライトを設置し、古代の空間再現ゾーンの園路にはアプローチライトを設置します。特に府中街道側につきましては、夜間の歩道が暗いので明るくしてほしいとの近隣住民の要望もありますので、その点は十分に配慮してまいりたいと考えております。

最後に4の今後のスケジュールです。第1期工事では、本年度中に実施設計を終え、市議会承認を経た後に、平成28年10月頃着工の予定で、平成29年度末に、一般公開の開始の予定です。第2期工事は、平成28年度ににぎわい創出ゾーンの民間市場調査を行い市民のニーズを把握し、整備活用の可能性についてゼロベースで検討を進める予定です。29年度に実施設計を行い、30・31年度に工事を行い、31年度に竣工して全体が一般公開となります。

以上です。

補足します。

先ほど説明させていただきましたとおり、A3版の図面の1ページで、A工区とB工区に分かれておりまして、今回の実施設計はA工区の第1期工事分のみです。今後B工区の第2期工事分は、来年度、民間から事業提案をもらって、事業計画を策定します。現在、府中市では京王線府中駅を中心とした中心市街地活性化計画を策定中で、今年の6月に内閣府から認定を受ける予定です。その認定以降の7月に民間からの事業提案をもらうための市場調査、事業提案の募集に向けた委託を行ってまいります。

最終的には平成32年にグランドオープンを迎えるというスケジュールの今回A工区・第1期工事分になります。

その中で、いくつか補足させていただきます。現地は、現在柱表示で、遺構は平面で表示する。

資料1の添付写真は、当館1階の国府百景ヴァーチャルツーリングの映像です。当館の映像はここ止まりです。というのは(空から)下に降りて、最終的には国司館に入っていけるのですが、ルートが限られています。これがARです。

VR技術を使って更に座標で好きなところに行って、そこから見ると360度国司館が見られる。

大事な事は、他所の例を示しますと、宮城県の多賀城市に行きますと、「歴ナビ多賀城」というアプリケーションソフトがございまして、スマートフォンの中に取り込める。(そのアプリケーションを起動して) AR・VR復元というボタンを押すと多賀城政庁の正殿が表示されます。これを実際に現地で正殿に向かって(スマートフォンのカメラを)かざすと、画面に正殿の建物が復元されるのです。ARの技術はここまでです。今回VR技術を使いたいのは、例えば一番安価なのは、ダンボール箱にスマートフォンを挿し込んでゴーグル状にして、VRヘッドセットにすることができます。それを装着して建物の中に入れる映像が見えるソフトが出ています。それを使った最新の技術としては全国では京都府向日市で長岡宮がVRで復元されておりまして、このヘッドセットを被ってそのアプリを起動すると、実際にその長岡宮に入って行って、国司が中で生活している風景が見られるようにしたらどうかなと考えております。

ヴァーチャルにつきましては、第1期工事分には入っていますが、第1期工事も28年度と29年度の2回に分けて予算化しておりますので、ヴァーチャルの方は29年度に実施する予定で、28年度10月以降の工事とは別に行います。今、考えているのは事業者から事業提案をもらって行うことですが、そのベースはこの方式です。この中で更に歴史的考証を重ねながら、事業提案をもらってヴァーチャルについては、事業者を決めて実施していきたいと考えております。

それから、資料の裏面の方に、アラカシのご説明をさせていただきましたが、シラカシは手間が掛かるだけではなくて、福嶋先生にご指摘いただいたように大きくなりますので、根が張ってまいりますと、どうしても遺構面を傷つける可能性がありますので、遺構の保護を重視して、今回はアラカシにさせていただきました。それがアラカシに決めた理由です。

それから、にぎわい創出ゾーンの竣工が平成32年3月になりますので、第1期工事の着手から丸3年間ありますから、現状のまま、碎石敷きで埃がたつままにしておく訳にはいきませんから、クローバーを植えさせていただくということで、景観に配慮しながら、埃対策でクローバーを植えたらどうかなということですが、

それから、現在詳細は検討中ですが、ヴァーチャルのスマートフォンは良いのですが、タブレットの貸出を考えておりまして、子供たちの見学等の場合に、複数台タブレットを用意して、それを持ちながら、見られるようにしたいと思っておりますので、現地で仮設のプレハブを設置して、にぎわい創出ゾーンの建物が出来るまではプレハブで見学者対応をしていきたいと考えておりますがそちらは今詳細検討中です。詳細が決まり次第、ご報告させていただきます。

それから、文化庁調査官からもご指導いただいているのですが、にぎわい創出ゾーンができればその屋根を下屋風にして、できればそこで市をやったりとか、夏の日除けや雨等はそこでいいのですが、丸3年以上何も無い状態が続くので、見た目上は実際只の広場ですので、あずま屋を作った方が良いのではないかというご意見を地元市民からいただいております、既にご了承いただいている基本設計の原案に沿った形でこの案を作っています。基本設計のとき、概算で4億2000万円ほどの総工事費を積算しておりますので、その予算の範囲内で、もし可能であれば、脇殿のSB7をあずま屋風の建物にして、夏の日除け、雨等の対策をここで出来るような形にしたいと思っておりますが、なにぶんこの地域は防火地域で木造の屋根と柱だけでは作れませんので、どうしてもコンクリートの防火建築になりますので、それを古代の建物風のあずま屋として作りたいという希望はあります。ですが、いずれにしても、まずは4億2000万円の原案で遣り繰りした中で作れば、ぜひあずま屋は建築したいと思っておりますが現状では難しいということです。

それから、別途東京新聞の夕刊トップにこの計画について大きく取り上げていただきましたので、その記事のコピーも参考資料として配布いたしました。非常によくまとまった記事で、良いPRになったかなと思っております。

以上です。

**会長** （新聞記事の写真を指して）タブレット端末っていうのは、こういう感じなのでしょう。

**事務局** はい、そういうイメージです。もちろんタブレットの方では先日審議会でご指導いただいたように、国司館だけでなく、家康御殿が出てきて家康が登場する形で作っていきたいと考えております。

**馬場委員** これはWi-Fiが使えるようにするということですね。

**事務局** そうですね、Wi-Fiが付く端末にするようですね。市では市内要所にWi-Fiアクセスポイントの設置を東京オリンピック・パラリンピック開催までに拡充させるということで来年度から動き出しますので、ここも賑わい施設が出来た段階で設置されます。

**会長** 4億2000万円というのは、工事全体ですか。

**事務局** 第1期工事のみの金額です。

**会長** 第2期工事の方が掛かりそうだけど。

**事務局** 今、目指しているのは民間からの事業提案で、民間に建ててもらい、民間に管理してもらうことがベストですが非常に難しいです。チャレンジはいたします。

**福嶋委員** シラカシは非常に大きくなる高木なのです。ケヤキよりもっと大きくなる。でも、アラカシも実は同じような性質なのです。アラカシも20m以上になるのです。

ですから、(木を植えるのに)何を目的にするのか、もう一度整理されたらいかがですか。音やごみが来るのを遮蔽するのか。景観的なものなのか。おそらく20mぐらいになってしまうと、落ち葉が落ちる・日陰になるという話が出ますし、この地図を見ますと、道路上のずっと出ますよね。そうすると、剪定しなければいけない。剪定すると電柱に枝を出したような格好でみんな切ってしまう、そうなる虞があるのです。

ですから、どういう風な機能を求めるかにも拠るのですが、周囲は土盛りを少しして、その上に低木を植えるのが良いのではないかと。低木が低すぎるといのであれば、せめてウバメガシだったら良いかなと。

1つの例として、農工大の南門の前に宿舎があります。宿舎の周りに、私が生活している時にウバメガシを植えたのです。それをご覧になると1つイメージが沸くかもしれません。出来て15年経っていますが、もちろん剪定はしていますが、未だ(樹高は)3m位なのです。

低木だと、トベラとか、マサキなんかが良いかと思うのです。

どの高さが必要なのかということですね。あまり大きくなる木を植えてしまうと、必ず落ち葉の問題とか剪定の問題とか日陰の問題が出て来ますので、それを遭えてやることはないだろうと。

その図面を見ると1列にずっと並ぶ感じですよ。しかも道路側とマンション側になっているので、あまり大きくなる木は上手くないだろうと。もちろん、これをお考えになって、シラカシあるいはケヤキは止めたのだろうと思いますが、アラカシも同じ性質なので、やはり止めた方がよいかなと思いますので検討してみてください。

それで、農工大の馬場の所にある木がウバメガシなのです。

**事務局** 新しくできた宿舎のですか。

**福嶋委員** はい、あの周りを取り巻いているのがウバメガシなのです。剪定し

ていますが、枝がけっこう密になるので、遮蔽効果は十分にあるかなとおもいます。もちろん、その木も10m位にはなるのです。生長は遅いので、そちらの方が（管理は）楽だなと。剪定にも耐えますので、そこら辺を含めて検討なさった方が良いのではないのでしょうか。

私は、アラカシは必ずしも良いとお勧めできません。（条件によっては）ウバメガシが必ずしも良いとはいいませんが、土盛りをすることによって、この辺でもそれなりに高くすることはできるのです。

マサキも良いのですが、マサキはミノガが付いたりして問題があるかもしれませんし、考え方によっては、サザンカ的なツバキみたいなのも良いかもしれません。大きくなならない木を選ばれた方が良いかと思います。

**会長** 江戸時代のこの辺の生垣は何を使っていたのですか。

**福岡委員** シラカシですね。アラカシはここでいいますと、高尾や多摩丘陵にあるのです。本来、武蔵野台地には無いのです。ウバメガシはもちろんここら辺には無いのです。トベラもマサキも野生の木はここら辺にはありません。人が通る所だから野生に拘らないということであれば、高木にならない物を選んだ方が良いでしょう。

昔の風景を再現するというので、ケヤキやシラカシを植えるというのであれば、それは1つの主張があるので良いと思うのですが。植え幅が狭いかなという気がします。

**会長** 昔の物を再現するというイメージがあると良い気がしますね。

**福岡委員** （地元の）野生のものが一番良いのですが。

**馬場委員** クワの木ってどういう木ですか。こういう場所で植えられないのですか。

**福岡委員** 植えても良いと思いますが、あれは暴れる木ですからね。（枝が四方八方に伸びて、形が乱れますからね。）

**馬場委員** カイコの話をお子孫たちに、いつもして、結局クワの木が全然無いので、子供が習うけど知らないみたいな、そういう木がこういう所に植わっていると良いかなと思います。

福嶋委員 それ専用の木としてここに入るのは良いかもしれない。

馬場委員 歴史上の資料に出てくるけど、無くなってしまったものとか、そういうものをこういう場所で、見せられると良いかなと。

事務局 それは万葉植物園に植えられます。

馬場委員 でも、ここはあまり大きな木は植えられないのでしょうか。

事務局 ウメぐらいは植えたいなと考えています。

福嶋委員 今仰った木は、中に取り込んで見せるというのが格好良いかもしれませんがね。

会長 とりあえず、ここに上がっているアラカシはペンディングというか。

福嶋委員 例えば5 m以上には大きくしないとかいう方針で剪定をずっと続けていくのであれば、アラカシでも良いのです。でもアラカシはシラカシと同じようなスピードで生長します。

会長 根はどうなるのですか。

福嶋委員 根もどんどん大きくなります。木は（幹や枝が）大きくなる分、根が張らないと倒れてしまいますから。

会長 根の方が心配ですね。根は環境が良ければどんどん大きくなるのですか。

福嶋委員 そうです。しかもここはローム層なので、根は張りやすいです。ウバメガシは海岸の岩場に生えるカシの木ですので過酷な環境にも耐えるという性質があるのです。だから、あまり甘やかしてはいけないのです。

会長 多摩と関係ない木でもいいのかな。

福嶋委員 街路樹というイメージを持てば、（ウバメガシの方が望ましい）



会長 被害が少なく、緑が（確保できる）

福嶋委員 一番良いのは低木です。低木は根が深く入りませんから。地下の遺構面を傷めることがないのです。

中村委員 質問です。このA3版の図面の3ページの図には低い木が描かれているのですが、この低い木があつて、所々に高い木があるという、その高い木がカシだということではないのですか。

事務局 植える時はこの高さの1.5mの木を植えるということです。3ページの右下の図がそうなのですが、擁壁が非常に高く、1.5mのフェンスをするのですが、景観上の意味もちろんあるのですが、遮蔽の意味でも重要かなと考えています。

福嶋委員 在来のものに拘らなければ、選択枝はあると思います。剪定さえするのであれば、アラカシでも高さは抑えられますけど、剪定をしないで30～40年経過すると上を切らないといけなくなる。どの高木でもそうです。

会長 最低でも1.5mは必要なのか。

事務局 （枝の）密集度も大事かなと。

福嶋委員 そういうことであつたら、トベラでも十分ですね。トベラなら（低木ですから）根は深く入りません。トベラも海岸の岩場に生える植物ですから。

馬場委員 マンション側はともかく、道路側は中が伺い見えた方が良いのではないですか。

福嶋委員 ずっと坂ですよ。

馬場委員 ここならではというイメージで。

会長 道路はもっと下なんでしょう。

事務局 かなり下ですから、東側のお宮の方まで行かないと見えません。

**馬場委員** 少なくとも駅に入る辺りは見える

**事務局** A3版の図面の1ページの、緑の端の所まで行かないと見えないです。

**会長** こういうことはきちっとやっておいた方が良いね。後で植え替えるなんて出来ないから。

**福嶋委員** 結局、街路樹は皆そうなのですが、腹が立つのは植えた時に格好が良いからという感覚で植えてしまうので、木が大きくなることを全く意識していない。だから、皆大きくなると上を切って枝がびゅっと出るみたいになる。だから、植えた時の美しさばかり求めているから、図面に描いた美しさだけが一人歩きしているのです。

**事務局** 福嶋先生、トベラは農工大にありますか。

**福嶋委員** トベラは無いかもしれませんが、トベラもあちこちにあるのではないのでしょうか。マサキの生垣はあちこちにあると思います。トベラも育て方によって1.5mは行きますので、もしそれより高さが必要なら土盛りを少し高くする。低木性のもは少なくとも根は深くまで張りませんから。高木性のもは上に伸びるから、下も伸びないとひっくり返るのです。今日の審議会が終わったら農工大の樹木をご案内しても良いですよ。

**事務局** 時間がございませんので、そのようにさせていただきます。福嶋先生がウバメガシが良いと仰るのであれば、そうします。

**福嶋委員** ただし、これは断っておきますが、街路樹としてであって、ここの郷土の樹木を代表したものではないということです。ここの歴史的背景のものだから郷土種、特にこの地域に野性であるものを使うべきと思うのですが、それが現実的に選べないとすれば、仕方ないかとおもいます。

**事務局** どうしても遺構の保護と遮蔽というのが最優先になってしまうのです。

**会長** ヤブツバキというのも良いのかな。

福島委員 ヤブツバキも悪くはないですね。それほど大きくなりませんから。

会長 それこそハケの方にそういうの結構有りますからね、

福島委員 ツバキは意外と弱いのです。チャドクガが付くし、チャドクガが出てくるとちょっとやっかいです。

会長 それでは止めた方が良いでしょうね。

福島委員 郷土種に拘らず、遮蔽用の街路樹として植える。ウバメガシは葉が小型で、秋に落ちないのです、5月か6月に落ちる。2・3年はその葉は生きていて4年目位に落ちるのです。ですから落ち葉の時期とは違う時期に落ちるのです。

会長 落ち葉は落ちるけど遮蔽にはなるのですか。

福島委員 常緑樹ですから、年中遮蔽にはなります。

会長 （資料1の2ページ目の上部右の写真を指して）この柱は木ですか。

事務局 この柱は木ではなく、FRPです。

会長 ここは最初からFRPにするのですよね。この方が軽いのでしょうか。

事務局 そうです。軽いですし腐りにくいとか傷みにくいです。

会長 それで10年以上保つと。

事務局 はい。

会長 大國魂神社の隣の国府跡の柱は10年も経っていないで駄目になったね。

それから、余計な事なんだけど、遺構の実物を上から覗けるようにするというのは考えていないのですか。

ガラスの板で蓋をしてライトアップするとか。

**事務局** そういう展示は全国各地でかなりやっているのですが、関東ローム層の遺跡だと必ずカビが生えて見えなくなってしまうのです。この近くですと、武蔵国分寺の尼寺で、展示をされていて、出来た時はすごく良かったのですが、今行くとカビで、外から何も見えない状態です。

残念ながら、私も是非やりたりののですが、関東ローム層の土壌の中ではそれは出来ません。

**会長** プラスチックみたいに加工するとか。

**事務局** もし、それをやるとしたら、遺構の表面を模りして、遺構面の上に被せるという方法はございます。例えばそれが石敷きの遺構とかの見た目が良いものならば良いのですが、今回は掘立柱の柱跡なので、そこまでしても、市民の方が見たときに分かりにくいのかなと思います。奈良の平城宮跡ですと、建物全体の覆屋を作って、今でも露出展示しています。そこもやはりかなりひび割れて来て、メンテナンスはかなり大変ですので残念ながらそれは断念しています。

例えば、これは現地が保存できなくてイトーヨーカドーさんが建った時にはそういう展示も有りかなと思っておりました。

**会長** 先の話でも実物感というか本物を見た方が、よいのではないかとおもう。

**事務局** 時代は違うのですが、家康御殿の井戸跡はその形で残すことになりますので、井戸跡は見せることができる、見せ甲斐があるかなと思っております。

**会長** （国司館関係でも）何かそういうのがあると良い。

**事務局** 家康御殿の井戸跡の写真は、お配りしたカラー刷りのパンフレットの表紙の下中央の写真です。

**馬場委員** 駅から見える場所ですね。

**事務局** はい。

**福嶋委員** 1つお願いがあるのです。駅からその井戸のところを見ると金網が

ずっと張ってあり、金網の枠が小さいのです。覗いて見る場所があると良いと思います。(金網越しに井戸は見えますが、どの角度でも綺麗に) 写真を撮れないのです。ですから、工事途中でも見える穴があると良い。今の金網の間隔は5cmも無いのです。

**馬場委員** 野鳥を観察するような穴でも良いですね。

**会長** こんなところでよろしいですね。

**中村委員** 先ほど、東屋風の休憩所に屋根を付けるという話は、私は賛成です。屋根があった方が建物だと実際に分かるからです。そこに解説があつて、それを読めば、建物のことが分かる。

消防法のごことは良く分かりませんが、脇殿に限らず、後ろの方は証拠が切れているから屋根の形はどうするのか分かりませんが、柱だけよりは屋根を付けた方が良いでしょう。SB7だけでなくSB5やSB8も屋根を付ける方が良いでしょう。

**会長** 屋根の形は難しいですね。

**馬場委員** 屋根も取り外すのですか。

**中村委員** 屋根の形が間違いだと分かれば直せば良い。

**会長** 変な屋根を作ったら、そうなのかと思ってしまうですね。そういうイメージを植えつけてしまう。

**中村委員** だから、これは推測なのだという解説を付けながらですが。

**会長** もしSB7に屋根を付けるなら、デザインが決まった段階で検討した方が良いでしょうね。

**馬場委員** 御殿の施設は井戸だけですね。柵列棚みなし穴等はなし。それと説明が国司の話だけしかないなので、パンフレットで説明はあるにしても、タブレットを使えない人もいる訳で、説明の中で、土地の歴史はきっちり、やった方が良いでしょう。ここが御殿と言いつわされていることは、土地の人に分かるように。

中村委員 家康御殿の柱跡のマーク位はあった方が良い。

馬場委員 この柵列が一杯出ていた所が何の図示も無いのかなと。国司館という史跡なので、どうしようもないのかも知れませんが。国府台の名前がずっと生きて来て、御殿の名前も生きていて、そこが重要なのではないかなと、思う。

福嶋委員 A3版図面の1ページの⑥のインターロッキングのところに、掘立柱みみたいな穴の跡が出来るのではないですかね。前回までの図面には無かったですか。

馬場委員 柵列だと言っていたところです。

福嶋委員 変えられるのですか。

事務局 家康御殿の柱表示は難しいです。解説板で一応説明します。

馬場委員 それこそヴァーチャルで、ここで（家康御殿が）見られるとか。

福嶋委員 ヴァーチャルの映像で、ここから富士山が見えるようなものが出来るのですか。

事務局 家康御殿については、残念ながら建物の復元が難しいので、先日、坂詰先生が仰っていたように御殿の中から富士山が見えるという映像におそらくなると思います。

まさに、国府台勝概一覧図が良いなと思ったのは、先日朝倉一乗谷の資料館で、ヴァーチャルで、屏風絵をモチーフにして、そこで人が動くのです。それが中々良かったのです。まさにああいう絵を使って出来るのかなと。

福嶋委員 防人が多摩の横山を歩いているのが出るとか。

会長 以前は、御殿跡とか呼んでいたのでしょうか。

馬場委員 御殿・御殿跡・御殿下とかいうのが地名の字名で使っています。

会長 その御殿をどの様にイメージさせるかというのも（大切に）、このまま

でいくと国司館地区という地名になってしまうから、御殿が消えていってしまう。それは残念ですね。

**坂詰委員** 解説の中でどの様に表現できるかという問題になってしまうので、遺構が無いものですから、遺構ではできない。

家康御殿と言っても、もっと強調すれば家康と秀忠の会見の場というのをヴァーチャルで描けば一番良い。

家康と言ってますが、秀忠がここに来る訳ですから、江戸は家康よりも秀忠ですからね。ですから、その両方をくっつけて何か説明してもらおうという方が歴史的だと思うのです。

家康だけが浮き上がっている。家康より秀忠がすごく力を入れたと思いますからね。家康がここまで来て、秀忠が来るのを待つのです。

秀忠が来る。そうするとそういう歴史的な背景で家康だけではないことを解説した方が良い。

**会長** 江戸時代はすごく見近な感じですよ。

**坂詰委員** その秀忠が東照宮を作ったというのだから、意味はある訳でしょう。そういう意味で大國魂神社もここと関連するのだという様な記述を説明に入れたらどうですかね。家康だけで切らないでね。

**馬場委員** 秀吉が来た時に絡んでいるので、関東地方の中世から近世に切り替わる時に、この府中御殿が出来ているし、そのきっかけだったというところは、府中の意味として強調しといた方が良いのではいかと思う。

**坂詰委員** その方が良いですよ。中世の国府は分からないのだから。

**会長** ケヤキ並木を家康が植えたと思ってるんだけど、その関係もあるのではないですか。

**馬場委員** 馬場を寄付したということですね。

**会長** 国司館地区だけになってしまうのは寂しいですよ。

**坂詰委員** 土地の方は、家康々というのが表に出てきますから。

**会長** 何かというと家康。

**坂詰委員** そういうのを、何かに落とし込めるかもしれない。取り敢えず国の問題はありますから、第1期工事は国司館を中心にして、皆さん色々な意見が出てきたら第2期工事でそれを打ち込んでいくという風にしたらどうでしょうか。あまり多様な事をやるとこの計画がまとまらなくなってしまう。

**会長** そうですね。分かりました。それでは、次に報告事項（1）について事務局の説明を求めます。

**報告事項（1）国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木緊急危険度診断調査の結果について**

**報告事項（2）郷土の森博物館市指定文化財旧河内家住宅屋根葺替工事について**

**事務局** 資料2をご覧ください。これはケヤキ並木の危険度診断を①から始めて東側を南へ、西側を北へと順に調査を行い、予定どおり2月3日から2月29日に調査を実施したものです。

今回、お見せした表は、ケヤキ並木の東側の診断結果に基き、発見された枯損枝について、まとめた速報の表です。調査は各樹木の太枝毎に行っています。

現在は調査結果をまとめて、今年度中に、対策を含めた報告書を診断を行った業者より提出させる予定です。

以上です。

**会長** 評価はどういう段階ですか。

**事務局** 0～3の4段階の評価です。0以外はなんらかの問題が有る太枝を指します。

**中村委員** 評価が3だったら伐採するのですか。

**事務局** いいえ、この評価はあくまで太枝毎の評価です。なお、この表とは別に調査対象の樹木の1本毎の写真があり、ここに部位が書かれています。

**会長** ほかにありませんか。（なし）。それでは本件については、年度末で調査が終了した時点で結果を改めて報告して下さい。



次に報告事項（２）について説明をお願いします。

**報告事項（２）郷土の森博物館市指定文化財旧河内家住宅屋根葺替工事について**

**事務局** 報告事項（２）郷土の森博物館市指定文化財旧河内家住宅屋根葺替工事については、本日このあと現地視察をお願いしていますので、詳細は現地でご説明致します。

**会長** 分かりました。

それでは審議会は以上で終了と致します。